

NEWS LETTER IPPS JAPAN

IPPS

Sharing Plants Production Knowledge Globally
Japan Region Since 1995

IPPS-J ニュースレター

国際植物増殖者会議日本支部

<http://www.ippsjapan.org>

2020.8

No.66

お問い合わせ先・事務局

〒441-8123

IPPS 日本支部事務・会計理事 水谷朱美

愛知県豊橋市若松町字北ヶ谷 244

E-mail: a.mizutani@verde-agribio.co.jp

TEL 0532-25-8712 FAX 0532-25-8486

宮崎大会は来年 11 月に延期

IPPS-J 会長 水谷朱美



皆様、こんな日常を過ごさなければならなくなるなど誰が予想したでしょうか。新型コロナウイルスの影響で、今年 11 月に予定していた宮崎大会は、来年の 11 月に延期開催することにいたしました。6 月 6 日に理事会が開催されたのですが、県をまたいでの移動に制限が残る状態でしたので、参加出来ない理事も多く、事前にメールで主なやり取りを行い、最終的に 5 名の理事が名古屋に集まり開催し、延期を決定いたしました。

この間、国際理事会は緊急会議も含め Skype や Zoom を利用して行われました。今年 6 月に開催が予定されていて、一旦来年に延期されたアメリカ西部支部の地区の大会は、確実に実施出来る見込みが立たないことと中止となった場合のホテル等のキャンセル料が莫大になるということで、延期から中止へと決定がなされました。2022 年日本支部での国際ツアーが再開初回の国際大会となります。他国の支部も年内の地区大会等は、身動きが取れず活動がほぼ出来ない状況であるため、来年に延期したり、今年の大大会は中止にして来年は元々予定されていた予定地での開催を決めた地区とがあります。役員人事についても国際理事はそのまま留任し、来年再任で同じ役を

することになりました。

日本支部は、今年の宮崎大会を来年 11 月に延期し、国際理事会と岐阜大会を再来年 2022 年に持ち越し開催することにしました。理事役員は、本来今年の総会で改選され、来年 1 月で交代するのですが、大会も総会もままならない状況ですので、本部人事同様 1 年留任とし、来年末まで任期を延長することになりました。今年秋、書面で総会を行おうと予定していますので、大会や理事の任期を延期したこと、決算・予算の審議をお願いしようと考えています。

その一方で、この度、長い間事務・会計理事を務めていただいた南出さんが、任期途中ではありますが、6 月 30 日をもって退任され、7 月 31 日をもって退会されることとなりました。南出さんには、長きにわたる IPPS-J の下支えをしていただきました。本当にありがとうございました。お疲れ様でした。後任は、一旦水谷が会長と兼務することとなりましたので、皆様のお力添えとご協力をどうかよろしく願いいたします。

国際理事会の話題を少し。世界の IPPS 会員数も減少しており、会員増強は課題となっています。IPPS ブランドの再構築を！と各支部及び理事会で叫ばれており、YouTube や Facebook

等の SNS を利用して新規加入者へ魅力を訴求しようとしています。どういう内容を掲載するのが良いのか手探り中といった感じです。

ブランド再構築のために、名前を変え、業種枠を拡げて参加しやすい名前にしようという声もあります。元々は、IPPS の Plant Propagator だった 2 つ目の P を Production から更に Producer に変更しようという声が上がっていますが、そのままでもいいと考える意見も根強くあり、まだ検討中となっています。いづれにしても IPPS の呼称は変えないとしているので、P をどの言葉（単語）で表すかを定めることなので、選択肢は多くありません。

ニュージーランドのピーター氏も長く国際理事会に国際理事として参加してくれています。コロナ禍でも家族のサポートを受けて体調に問題無く、元気に過ごせているようです。そのピーター氏が国際の

HPにある会員ページに入るためのパスワードの再発行を国際事務局にお願いしてくれました。6 月末から 7 月頭頃に IPPS から英文メールが届いたかと思います。IPPS へ入会する際登録したメールアドレスです。皆さんのメールアドレスが ID となり、その下にランダムな文字が記されたパスワードが届いたかと思います。国際 HP (勿論英語です) でメンバーログインすれば、投稿論文を見たり、国際理事会の議事録等も見ることが出来ます。一度試してみてください。

水谷 朱美

IPPS-J 今後の大会等の予定

第 27 回宮崎大会	2021 年 11 月 6～7 日
国際理事会	2022 年 10 月 15～21 日
第 28 回岐阜大会	2022 年 10 月 22～23 日
第 29 回滋賀大会	2023 年（予定）

南九州大学の紹介

南九州大学環境園芸学部環境園芸学科

果樹園芸学研究室 教授

前田隆昭



皆さん、こんにちは！
今回は南九州大学の紹介をさせて頂きます。

○南九州大学のあゆみ

本学は1967年に宮崎県高鍋町にキャンパスを開設し、県内初の4年生私立大学として開学しました。開学時は1学部2学科で発足しました。その後、2003年に宮崎市に宮崎キャンパスが開設され、健康栄養学部管理栄養学科・食品健康学科（現在、食品開発科学科）を新設しました。2009年に高鍋キャンパスが宮崎県都城市に移転し、環境園芸学部環境園芸学科ができた



宮崎キャンパス外観

●環境園芸学部 環境園芸学科のあゆみ

- 1967 「高鍋キャンパス」を開設
園芸学部 園芸学科/造園学科 ●
- 1976 農業経済学科 ●
- 1999 大学院 園芸学・食品科学研究科
- 2002 環境造園学部 造園学科・地域環境学科 ●
- 2009 「都城キャンパス」に移転
環境園芸学部 環境園芸学科 ←
- 2017 創立50周年 50周年
- 2018 環境園芸学部 環境園芸学科 10周年

した。翌年、都城キャンパスに人間発達学部子ども教育学科が新設され、現在の3学部4学科が完成しました。2017年に創立50周年を迎えています。



都城キャンパス外観

○環境園芸学部 環境園芸学科について

環境園芸学科は、3分野5専攻18研究室で構成されています。3分野は、高鍋キャンパス時代の園芸学科が園芸学分野に、造園学科が造園学分野に、地域環境学科が自然環境分野となっています。学生は、1年生後期に分野を、2年生後期に専攻を選択し、3年生後期に研究室に配属され卒業論文の研究を始めます。

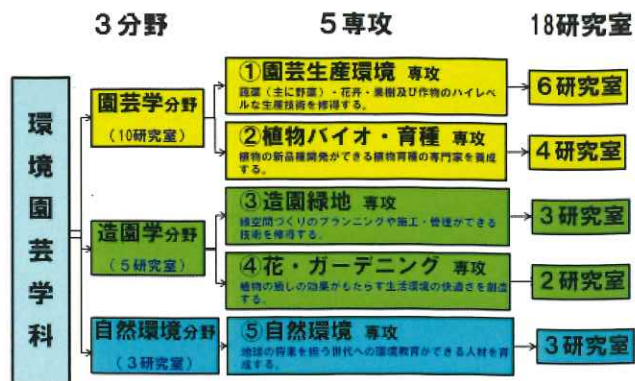
本学科は、園芸・造園・自然環境の専門分野における専門職業人（スペシャリスト）の育成を目標に教育・研究を行っています。そのために、実学を重視し、環境園芸学部附属フィールドセンターにおける実習および実験室や演習室での実験・演習に力を入れています。



日本農業技術検定1級（果樹）合格者

本学科の学生は、教員志望が多く、農業高校や高校・中学校の理科の教員免許を取得します。ここ数年、現役で教員採用試験に合格する学生もいます。また、造園技能士、園芸装飾技能士、日本農業技術検定などの資格取得に関しても、附属フィールドセンターが中心となり手厚い支援を行っています。

●環境園芸学科の基本構成



ます。

日本農業技術検定の1級合格率は10%前後とかなり難関ですが、本学科からは、ここ3年連続で合格者が出ています。合格者の内訳は、平成29年は作物1名、平成30年は野菜1名、令和元年は花き・果樹1名ずつでした。

○果樹園芸学研究室について

当研究室は、私が着任した平成27年度から再開されました。それまでの数年間は果樹の教員が不在でした。その間、宮崎大学の鉄村先生が、本学の非常勤講師として果樹関連の講義をして下さっていました。

現在まで当研究室から学部生35名、大学院生（修士課程）2名が卒業し、各方面で活躍しています。現在は、大学院修士課程2年生1名、学部4年生7名の計8名が所属しています。しかし、3月から新型コロナウイルス感染症の影響で、学生は、原則大学に立ち入ることができず、授業もオンラインで、修士論文や卒業論文に関する研究はまったく実施できていません。したがって、現在の取り組みや研究室の学生の写真はありませんが、これまでの取り組みについて少し紹介します。

当研究室では、熱帯・亜熱帯果樹類や特産果樹類を対象とした栽培に関する研究を行っています。

1 ポポーに関する研究

ポポーは、バンレイシ科ポポー属に属する落葉小高木です。バンレイシ科は主に熱帯に分布しますが、ポポー属は唯一温帯に産します。宮崎県でもポポーの栽培が行われていますが、ほとんど研究はなされていません。そこで、当研究室では宮崎県におけるポポーの休眠期を調べました。その結果、8月から9月にかけて浅い休眠状態であり、10月上旬から1月上旬にかけて最も深い休眠状態で、1月中旬から徐々に休眠が覚醒していき、3月上旬に完全に休眠覚醒することがわかりました。今後はこの結果をもとにハウス栽培等も検討していきたいと考えています。



ポポーの結実状態



ポポーの果肉の様子

2 サンショウに関する研究

サンショウは皆さんご存じのように、ウナギにける粉末に用いるものです。国内では和歌山県が主産地です。当研究室では、台木を早期に育成することを目的に、カラスザンショウの種子を用い、種子発芽に関して調べました。

樹上で成熟した種子を播種し、吸水させた後、15~20℃で2ヶ月間程度暗室においた後、25℃で発芽促進することで高い発芽率を得ることがわかりました。



サンショウの結実状態

3 アボカドに関する研究

アボカドも皆さんご存じかと思います。

アボカドは、最近、宮崎県や鹿児島県をはじめ各地で栽培されていますが、品種によって収穫期が異なり、収穫適期の判断が難しい果樹です。

そこで、南九州におけるアボカドの収穫適期を把握することを目的に、現在、研究を続けています。また、結果ができれば報告させていただきます。

以上、長くなりましたが、南九州大学の紹介とさせていただきます。

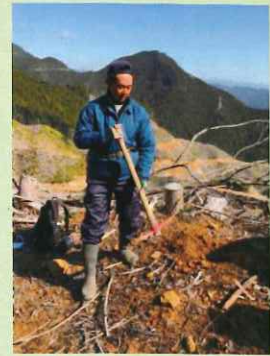
南九州大学をよろしくお願い致します。

前田 隆昭

木楽 Nakamura

中村 昌幸

〒513-0037 三重県鈴鹿市十宮 1-7-8
kirakuna@mecha.ne.jp



クマノザクラ
という新種のサ
クラに出会った
ご縁から南紀グ
リーンハウスの
柴崎さんと出会
い、そのまたご縁
で(株)赤塚植物園
の藤森さんと再
会するなどして、
前三重大会(2000)
から約20年ぶり
に再び三重大会
で発表させてい
ただくという機
会をいただきました。
今回はニュー
ズレターとい
うことで、クマ
ノザクラとはど
んなサクラなの
か改めてご紹介
させていただきます。



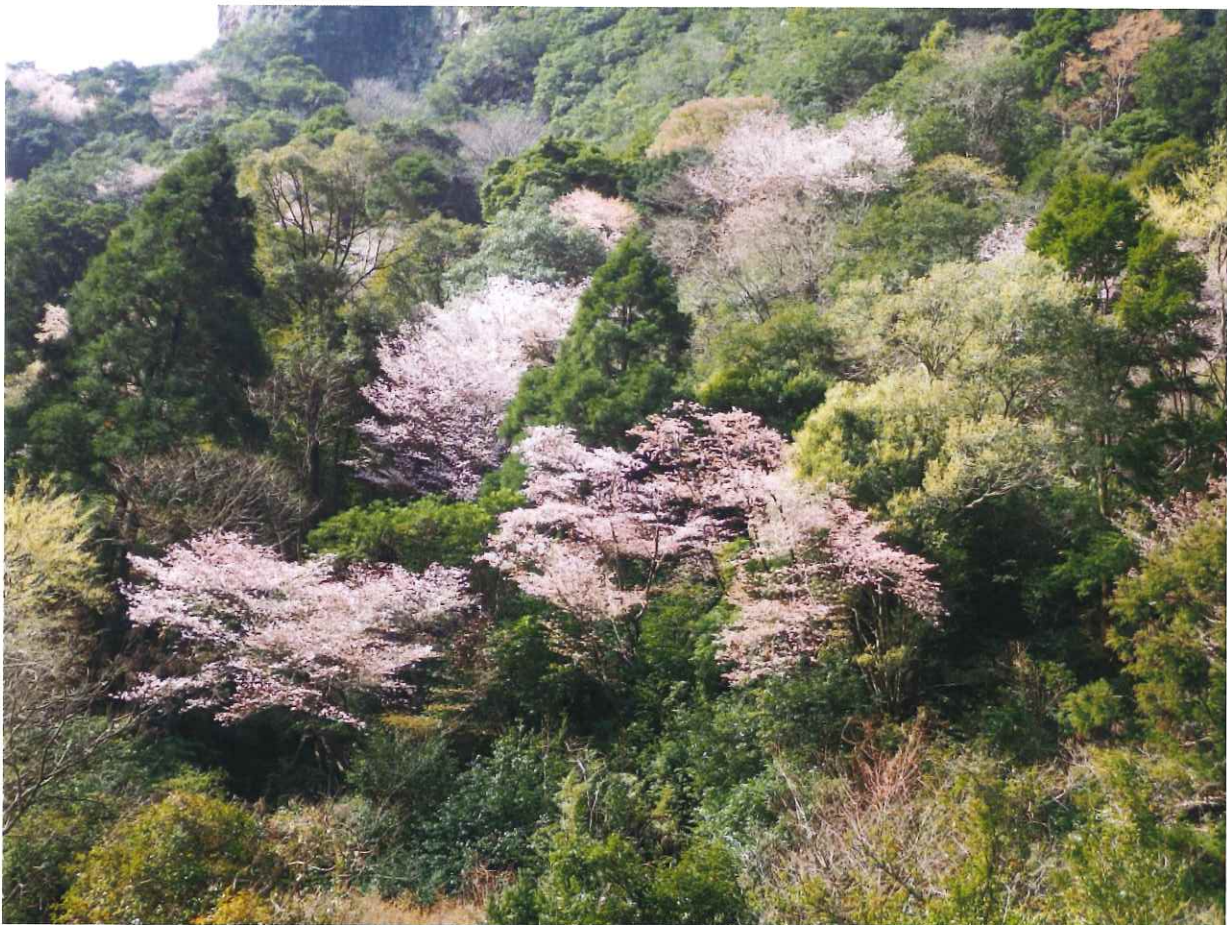
図-1. クマノザクラの確認された産地(赤点)と推定分布域(赤破線).

(勝木博士提供)

クマノザクラ (*Cerasus kumanoensis* T. Katsuki) は 2018 年に国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所でサクラの分類の研究を行っている、勝木俊雄チーム長によって新しく発表されたサクラの野生種です。英名を Kumano cherry と名付けられたこの野生種は、1915 年にオオシマザクラが発見されてから約 100 年ぶりの発見とあって大きな

注目と話題を集めました。その分布域は紀伊半島南部の三重県・和歌山県・奈良県にまたがる南北 90km、東西 70km ほどの範囲が確認されています。私の住んでいる三重県では紀宝町、御浜町、尾鷲市、紀北町に自生していることが分かっていて、中でも熊野市紀和町は個体数が多く、町の各所で綺麗な花を見ることができます。

< 自生地 >



クマノザクラの魅力はまず早咲きという点です。4 月上～中旬に咲くヤマザクラや‘染井吉野’よりも早く開花します。和歌山県の早い地域では 2 月下旬から咲く個体もありますが、三重県では、

3 月上旬ごろになると紀宝町、御浜町の平地あたりから咲き始め、熊野市では 3 月下旬辺りをピークに標高の高い場所では 4 月上旬ごろまで開花を見ることができます。

次に咲き方、野生のサクラなので花の大きさ、色、開花時期に個体差があります。ヤマザクラが花と葉が同時に開くのに対し、クマノザクラは‘染井吉野’と同様に花が葉よりも早く開くことが特徴です。花の色は白に近いものから濃紅

に近いものまで幅広い個体が存在しています。それぞれに良さがありますが、日本人の好みである淡紅色の個体が多く、その中でも花の中にフレアの見られる個体は遠くても近くでも楽しめるという魅力十分です。

<白に近い>



<淡紅色>



<濃紅色>



<フレア>



次に樹形です。ヤマザクラよりも小型でふんわりとした樹形は他のサクラではみられない美しさがあります。その優しい樹形の元になるのが細い枝です。明らかに他のサクラに比べて細い枝は伸びるほどに、ほぼ水平もしくは少し垂れることから横にふんわりと開く樹形

になり、これが非常に可憐な開花の姿を見せてくれます。また、当年枝まで花芽をつけることが多く、これも美しさをより際立たせていますが、この性質を考えると鉢物でもきれいに開花させることができるのではないかと期待されています。

<樹形>



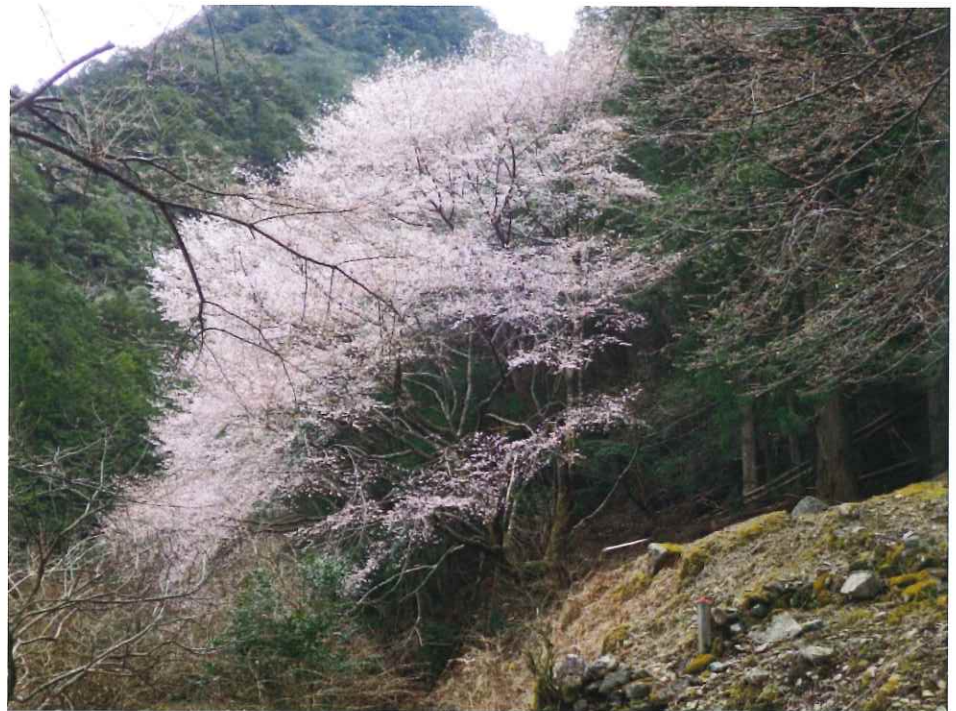
<樹形>



最後になりますが、現在この魅力あるサクラを普及させていくための取り組みとして、花色、開花時期、樹形に魅力のある優良個体を収集してその特徴の確認を行っています。

これらを造園用、園芸用、盆栽用、切り花用など各分野で利用できるような情報を整理しつつ、販売を進めていきたいと考えております。

近い将来、三重県産のクマノザクラが色々な町で楽しんでいただけるだけで



なく、日本の誇る美しい桜として世界に発信できるように努力していきたいと考えています。

中村昌幸

I P P S 雑感

速水正弘



私は、静岡県に就職し、初めて農業試験場に勤務した昭和 1980 年、先輩研究員の研究の一部を分担したことから、それを園芸学会東海支部大会で発表するよう言われ、園芸学会に入会しました。その後、普及に出て、二度目の農業試験場勤務となった 1988 年、当時脚光を浴びていた植物工場に興味を持ち、植物工場学会に入会、3 年後に生物工学を担当することとなったことから、組織培養学会（現分子生物学会）に入会しました。

園芸学会では、各県の研究者や大学の先生と話をすることができ、また、大会で得た知識等を現場指導に役立てることができ、大変有意義なものでした。

また、植物工場学会では、高辻先生が「あなたみたいな現場を知ってる人がこの学会には大切なんだ。」と、すごくかわいがっていただき、また、東海大学の高山先生、林先生、星先生（和歌山大会で講演したいただいた先生です。）たちとも親しくさせていただき、組織培養学会も仕事に生かせる知識が多く得られ、有意義なものでした。

しかし、園芸学会は投稿に英文が多くなり、現場で使うにはいちいち訳さなければならず、植物工場学会は、他の 4 つの学会と合流したのち、研究内容が重箱の隅をつつくような内容が多くなり、分子生物学会も遺伝子に関する内容が多くなり現場の農業に使える内容はほとんど見られなくなりました。

そんな折、2003 年に、当時私が親しくしていた生産者東海園芸の山本氏より「2004 年に I P P S の国際大会を日本、それも静岡でや

るので、協力してほしい。」と頼まれ、入会すると同時に、出身大学（静大）、行政等に声掛けをして、実行委員会を組織し、大会の講演要旨集の取りまとめを行いました。

その後、15 年以上 I P P S に関わった来たのですが、I P P S はいまだに生産者が多く、また話題となることも現場に近い内容が多いことから、私が求める現場と学問のはざまが守られている組織だと常々感じています。

また、懇親会等では、現場の人たちと大学の先生等が和気相々と歓談することができ、お互い得るものが多いなど、かつての良き時代の園芸学会や植物工場学会等の失われたものをとどめているようにも感じます。

しかし、他の学会もそうですが、I P P S も会員が減り続けています。

私は、大学の先生や研究者は現場の声を知るうえで、また、生産者や関連業種の方たちは、現場の問題を研究・教育機関に伝えていただけるように、是非、会員数の増加をお願いしたいと思います。

速水 正弘

ニュースレターでは、研究紹介や皆様の意見、感想、話題等の原稿を募集しています。内容は、今回のように、クマノザクラのお話や学生を指導している内容（卒論やプロジェクト研究等）も大歓迎です。

原稿は、表、グラフ、写真等を合わせ、4,000 字以内でお願いします。また、できるだけワードのMSゴシックで、12ポイントを使用していただけると助かります。

IPPS-J 第十二期理事・監事・役員・理事代理 (2019.1.1～2021.12.31).

	役 職	氏 名	担 当	会 社 ・ 所 属
1	会長 事務・会計理事	水谷 朱美		(株)ベルディ
2	副会長	速水 正弘	ニュースレター	
3	副会長	文室 政彦	滋賀大会	
4	編集理事	富田 正徳	ホームページ	バイエルクロップサイエンス(株)
5	国際理事・ 国際交流推進委員	大森 直樹	IPPS 活性化	(株)RIFNUM
6	理事	藤森 忠雄		
7	理事	前田 隆昭	宮崎大会	南九州大学
8	監事	鉄村 琢哉		宮崎大学
9	本部国際理事	Peter F.Waugh		Carann
10	年史編纂委員	大橋 広明		愛媛大学
11	理事代理	落合 正樹	岐阜大会	岐阜大学
12	理事代理	大西 隆		(有)セントラルローズ
13	理事代理	鈴木 智子		静岡県経済産業部農業局
14	理事代理	内田 恵介		グリーンクラフト
15	理事代理	尾崎 勝也	宮崎大会	南九州大学

IPPS-Jの大会予定

※大会を開催したい方は早めに事務局へ申し出てください。

2021年 11月 6日(土)～7日(日) 第27回 宮崎大会(担当:南九州大学 前田隆昭氏)、宮崎県都城市
 2022年 10月 22日(土)～23日(日) 第28回 岐阜大会 (IPPS国際大会)(担当:落合正樹氏)、岐阜県岐阜市
 関連スケジュール 10月 15日(土)～21日(金) IPPS国際理事会&国際ツアー:関西～岐阜
 2023年 第29回 滋賀大会(担当:文室正彦氏):滋賀県(予定)

編集後記 コロナウイルスの大流行で、世の中の動きがまさにストップし、感染自粛のため家籠りする日も多くなり、運動不足に陥りがちな生活を送っています。

「家籠りをしているなら、このニュースレターをもっと早く編集しろ!」とお叱りを受けそうですが、会長の文の中にあったように、事務理事の変更等予期せぬことが重なり、いつもより一月遅れの発刊となりましたこと、ご容赦願います。

ニュースレター担当:速水正弘